

四條畷学園高等学校 飯盛嶺(いもりね)校舎



外観

1926(大正15)年に「四條畷高等女学校」を前身として開校。現在は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学を擁する総合学園へと発展。大阪近郊の緑豊かなキャンパスにすべてが集積されている。



2・3F女子トイレ 全体

改修前に抱かれていた5K(暗い、臭い、汚い、怖い、壊れている)イメージを払拭するため、明るく清潔感があり、暖かみのあるトイレに改修。内装はナチュラルな木目調のブース材を採用し、ぬくもりを感じさせている。



2・3F女子トイレ 洗面コーナー

カウンターとボウルに継ぎ目がない一体形状で清掃しやすいマーブライトカウンター(ボウル一体タイプ)を採用。水栓金具は、衛生面に配慮して非接触で使用できる自動水栓を採用している。



2・3F女子トイレ スタイルングコーナー

在校生の男女比は女子9:男子1。女子生徒のニーズにあわせて、女子トイレ内に身繕いができるスタイルングコーナーを新設。コーナータイプのレイアウトを採用し、狭い空間でも2人同時利用が可能となっている。



2・3F女子トイレ 大便器ブース

スッキリとシンプルな形状のパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。のぞきなど防犯対策としてブースの仕切り壁は天井まで立ち上げているが、扉は緊急時に確認するため上部を空けた仕様としている。



4Fトイレ入口

4Fトイレは、(写真左から)女子トイレ、男子トイレ、だれでもトイレを設置。また、改修を機にトイレサインも新しくしている。



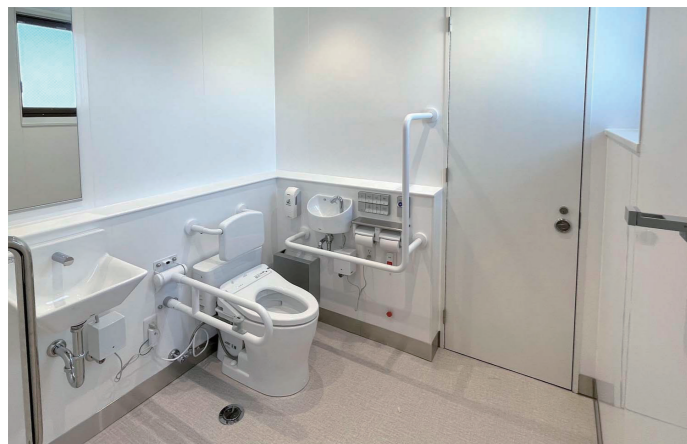
4F女子トイレ

改修を機にブース数を見直した結果、休憩時間などの混雑時でも使いやすい、ゆとりのあるトイレ空間に生まれ変わった。また、身繕いに配慮してスタイルングコーナーや全身鏡を設けている。



4F男子トイレ

女子トイレと同様に、内装は明るく清潔感があり、暖かみのあるナチュラルな木目調で設えている。小便器は、節水性や床の清掃性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用している。



4Fだれでもトイレ

男女共用のだれでもトイレには、車いす使用者の利用に配慮し、背もたれや手すり、壁掛ハイバック洗面器を採用。手荷物配慮として、ライニングやフックが設けられている。



6Fトイレ入口

6Fトイレは、女子トイレ、男子トイレ、来客・職員用トイレをL字型に配置している。



6F女子トイレ 全体

トイレ入室した時の開放感を実現するため、窓を活かして洗面コーナーとスタイルングコーナーを配置。眺望にも恵まれ、明るくゆとりのある空間となっている。



6F女子トイレ ひろびろブース

急な体調不良などに配慮して、ひろびろブースにベンチを設置。「保健室に行きづらい」「ひとりになりたい」「座りたい」時にも利用できる空間となっている。

四條畷学園高等学校 飯盛嶺(いもりね)校舎



6F男子トイレ 全体

限られたスペースながら、使いやすい動線や空間寸法を確保したトイレ空間。トイレの入口ドアを開けた際、小便器を使用している様子が見えないよう間仕切り壁を設置。また、身繕い配慮として全身鏡も設置している。



6F来客・職員用トイレ 洗面コーナー

男性は角型ボウル、女性は丸形ボウルを採用したマーブライトカウンター(ボウル一体タイプ)を設置して、それぞれの空間を演出。自動水栓もボウル形状にあわせたデザインを選択している。



トイレサイン

改修を機に新しく制作したトイレサイン。ナチュラルで清潔感のあるトイレ内部の雰囲気や伝わるよう、サインの素材も木材を用いている。



6F男子トイレ 大便器ブース

大便器は、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。さらに、衛生性に配慮して、洗浄リモコンは非接触で洗浄が行えるセンサースイッチを採用している。



6F来客・職員用トイレ 小便器コーナー

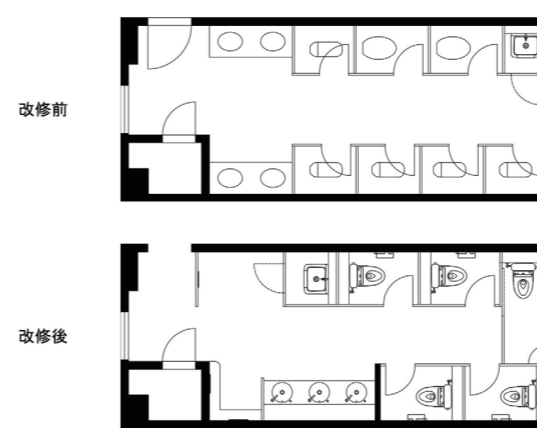
多様な利用者に配慮して1ヶ所に手すりを設置。足元には、抗菌・抗ウイルス効果を有し、汚れやにおいの発生を抑えるハイドロセラフロアPUを採用。天然石をモチーフにした石目調の柄を選定している。



改修前

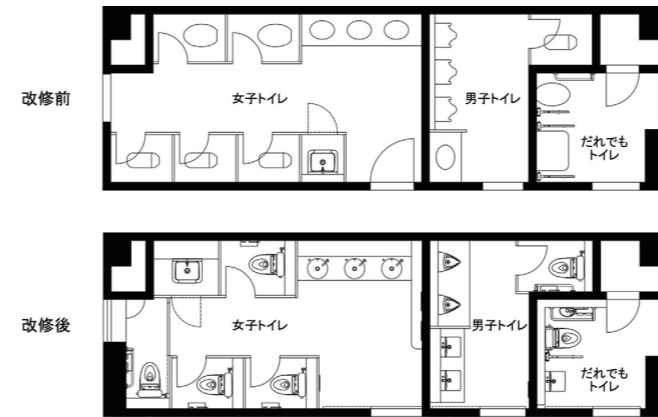


築25年が経った改修前のトイレは、タイル張りの湿式清掃が行われており、器具も劣化していた。



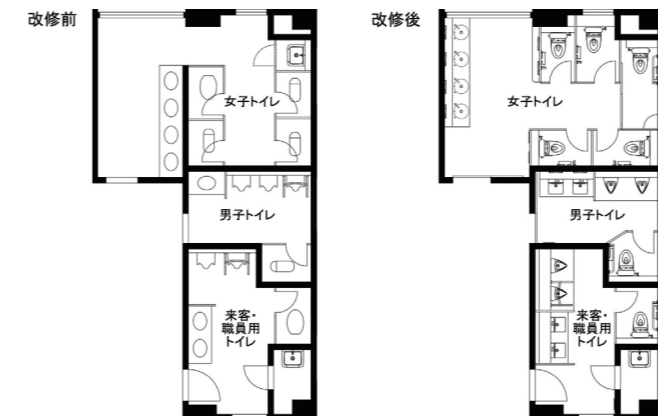
2・3F女子トイレ図面

改修前は、和式便器が多く湿式清掃だったが、洋式便器を採用し、乾式清掃に変更。器具数算定におけるレベル1を確保した上で、器具数減としたが、ひろびろブースを設けるなど、使いやすいレイアウトに改修された。



4Fトイレ図面

女子トイレの最奥に、急な体調不良などに配慮してゆっくり使用できるひろびろブースを新設。また、「だれでもトイレ」と表記されたトイレは、車いす使用者だけでなく、男子・女子生徒も使いやすいよう配慮された。



6Fトイレ図面

利用者の動線に沿って器具や設備の配置を変更することで、来客・職員用男性トイレ、男子トイレ、女子トイレともに使いやすいレイアウトが実現されている。

水まわりの特長

改修の経緯

学校法人四條畷学園は、1926(大正15)年に「四條畷高等女学校」を前身とし開校。現在は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学を擁する総合学園である。大阪近郊の緑豊かなJR学研都市線「四條畷駅」から徒歩1分の安全で電車通学にも便利な場所に位置するひとつのキャンパスに、学園機能のすべてを備えている。今回トイレ改修工事を行った飯盛嶺(いもりね)校舎は、中学校・高等学校の共同利用施設として1998(平成10)年に竣工され、現在は高等学校の教室棟として利用されている。築25年経ったトイレの改修目的は、衛生整備のために湿式清掃から乾式清掃化への変更とし、私立学校施設整備費補助金を活用。より使いやすく、暖かみのあるトイレへと改修された。

水まわりの特長

改修前の5K(暗い、臭い、汚い、怖い、壊れている)のイメージを払拭するため、明るく清潔感があり、暖かみのあるトイレに改修。内装にはナチュラルな木目調のブラス材を採用し、ぬくもりを感じさせている。また、四條畷学園高等学校は、男女共学校であるが在校生の男女比が女子9:男子1のため、女子生徒のニーズにあわせて身繕いができるスタイリングコーナーを女子トイレ内に新設。さらに、ひろびろブース内にベンチを設置。「保健室に行きづらい」「ひとりになりたい」「座りたい」時に使用できるブースとし、急な体調不良にも配慮している。また、改修を機にトイレサインも新しく制作。ナチュラルで清潔感のあるトイレの雰囲気が伝わるように、素材は木材を選定している。

建築概要

名称	四條畷学園高等学校 飯盛嶺校舎
所在地	大阪府大東市学園町6-45
施主	学校法人 四條畷学園
設計	株式会社 田原建築設計事務所
施工	岩出建設株式会社
竣工年月	(改修)2023年8月
敷地面積	21,188.331㎡
建築面積	408.50㎡
延床面積	3,254.22㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階、地上9階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BMK、CFS498BMLC
ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AEY
ウォシュレット アプリコットP(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5840AUPN
棚付二連紙巻器:YH702
チャームボックス(汚物入れ):YKB104
自動洗浄小便器:UFS900JS
マーブライトカウンター(ボウル一体タイプ):MC45、MK45
壁掛ハイバック洗面器:LSA125AN
台付自動水栓:TLE26SS1A、TLE27SS1A
背もたれ:EWC283CR
パブリック用手すり:T112CL10、T112CU22、T112HK7R
フック:YKH22